鶴　見　大　学

入試問題（縮刷版）

短期大学部

2023（令和５）年度

2023（令和５）年度 入試問題（縮刷版）　目 次

※未実施の入試問題は掲載していません。
※実際に受験があった科目のみ掲載しています。

短期大学部

総合型選抜

課題作文

■保　育　科（１期・２期）　…… 1
■保　育　科（４期）　…… 2
■歯科衛生科（１期）　…… 2
■歯科衛生科（２期・３期）　…… 3

学校推薦型選抜（一般公募推薦）

小論文

■歯科衛生科（１期・２期）　…… 4

一般選抜（個別選抜型）
新入生特待奨学生選抜試験

国　語

■保育科・歯科衛生科　共通　…… 5
解答例　…… 6

2023(令和5)年度 入学試験問題

課 題 作 文

保育科 課題

2022年9月18日実施
総合型選抜【1期】

試験時間：60分間
字数：800字以内

1

最近の乳幼児に関する社会問題で特に関心のある事柄をあげ、それに関する自分の考えを論理的に述べなさい。

2023(令和5)年度 入学試験問題

課 題 作 文

保育科 課題

2022年10月9日実施
総合型選抜【2期】

試験時間：60分間
字数：800字以内

1

子どもの遊びに関することで、特に関心のある事例をあげ、それに関する自分の考えを論理的に述べなさい。

2023(令和5)年度 入学試験問題

課 題 作 文

保育科 課題

2022年12月11日実施
総合型選抜【4期】

試験時間：60分間
字数：800字以内

1

障がいのある子どもの保育に関することで、特に関心のある事柄をあげ、それに関する自分の考えを論理的に述べなさい。

2023(令和5)年度 入学試験問題

課 題 作 文

歯科衛生科 課題

2022年9月18日実施
総合型選抜【1期】

試験時間：60分間
字数：600字以内

1

チーム医療における歯科衛生士の役割について

６００字以内で書きなさい。

2023(令和5)年度 入学試験問題

課 題 作 文

歯科衛生科 課題

2022年10月9日実施
総合型選抜【2期】

試験時間：60分間
字数：600字以内

1

歯科衛生士におけるSDGs<Sustainable Development Goals>

について

６００字以内で書きなさい。

2023(令和5)年度 入学試験問題

課 題 作 文

歯科衛生科 課題

2022年11月6日実施
総合型選抜【3期】

試験時間：60分間
字数：600字以内

1

歯科疾患と全身疾患の関連性について

６００字以内で書きなさい。

2023（令和5）年度 入学試験問題

小　論　文

歯科衛生科 論題

2022年11月6日実施
学校推薦型選抜（一般公募推薦）【1期】

試験時間：60分間
字数：600字以内

1

「歯科衛生士の理想像」について

６００字以内で書きなさい。

2023（令和5）年度 入学試験問題

小　論　文

歯科衛生科 論題

2022年12月11日実施
学校推薦型選抜（一般公募推薦）【2期】

試験時間：60分間
字数：600字以内

1

「歯科衛生士に必要な資質」について

６００字以内で書きなさい。

1

2023（令和5）年度　入学試験問題

国　　語

保育科・歯科衛生科

2023年2月1日実施
一般選抜（個別選抜型）
新入生特待奨学生選抜試験

注 意 事 項

1．試験開始の指示があるまで、この問題冊子には手を触れないこと。
2．問題は、1～4ページに記載されている。
3．解答用紙の所定の欄に、志望学科名・受験番号・氏名を忘れずに記入すること。
4．解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
5．試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて試験監督者に知らせること。
6．試験時間は、60分間である。
7．問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
8．試験終了の指示後、解答用紙を問題冊子の上に伏せて置くこと。
9．この問題冊子は持ち帰らないこと。

2

一　次の各――線部のカタカナを漢字で記しなさい。

① ヒッシの抵抗をする。　② 多くの時間をサく。　③ 経費をケンヤクする。
④ 気力をフルいおこす。　⑤ 学校の廊下をハく。

二　次の①～④の成句について、――線部の読みをカタカナで記し、その成句の意味を書きなさい。

① 逆鱗に触れる。　② 後生おそるべし。
③ 辛酸をなめる。　④ 歯牙にもかけず。

三　次の①～③の各三語を適切に用いて、主語と述語のそろった例文を書きなさい。

① 意匠　趣向　開発
② 論陣　説得　成功
③ 暫時　漸次　完成

四　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

最初に「市場」という言葉を考えてみたいと思います。「いちば」「しじょう」と二通りの読み方がされていますが、本来の読みは「いちば」であり、しかも「市庭」と表記されていました。「場」の文字が使われている例は、中世では時代が降ってからの文書でしか見出すことができません。（中略）

3

庭は本来、私的な関係を［x］、特異な空間を表現する言葉だったと考えられます。個人の家の塀や垣根に囲い込まれた現在の庭園とは性質の異なる［y］と考えなくてはなりません。ですから「市庭」も、「市が立つ庭」つまり共同体を［x］交易の行われる場を示す言葉だったのです。

市が立つ［y］については近年研究が進み、河原や川の中州、海辺の浜、坂の途中などに市が立ったことがわかってきました。これらの場所は川と陸の境、海と陸の境、そして山と平地の境であり、いずれも「境界領域」ととらえることができると思います。古代に遡ると、椿、栃などの大きな木の下にも市が立っていたという例が知られていますが、これも天と地との境と考えられます。

また、勝俣鎮夫氏によると古来、虹が出た場合には必ず市を立てるという習慣がありました。例えば十一世紀初めの藤原道長の日記にそのことが書かれており、その後も室町時代くらいまで、この習慣は続いていたようです。その理由について勝俣氏は、虹はあの世とこの世、天の世界と人間の世界との架け橋であり、その下で［a］を行うことによって神を喜ばせなくてはならなかったのだと言っておられます。

私もこの考え方に全く同感で、人々が市を立てた場所はみな、人間の力を［x］聖なる世界と世俗の人間の世界との境であったと見てよいと思います。それらの場所は、私流に言えば「世俗の縁の切れる場所」、「無縁」の場であり、そこでは人も物も、神仏の世界、聖なる世界に属し、誰のものでもなくなってしまうのだと考えられます。そのようにして一度、物を「無縁」の状態にしなくてはならないと、考えられていたと思います。つまり、そのような世俗の縁の切れた場所、「無縁の場」に物を投げ入れることによって初めて、人間は物を商品にすることができたと言うこともできると思います。[1]普通の生活の中で物と物とを交換すると、その二人の関係はより強く結びつくことになります。例えば、古代では男女がお互いに許し合う仲になると着物を交換し合う風習がありましたが、そのように物の交換、贈与・互酬によって人と人との関係はむしろ深く繋がるようになります。特定の人の持ち物にはその人の心がこめられており、それを相手に渡すのは、自分の心を渡すことだったのです。また、物をもらうのは相手の心をもらうことになりますから、こうした物の交換は贈与・互酬であり、[2]商品の交換にはならなかったのです。しかし、市庭で交換される物はすでに世俗の縁の切れた物、人の世界から切り離された神仏の世界の物になっていますから、全く後腐れがなく、商品として交換することが可能になったのだと考えられます。

更に言えば、そういった人の力を超えた世界に物を［b］することで、[3]人は物を「神」の手に委ねてしまったのだと考えることもできるのかも知れません。そう考えると、人間が市場を自らの意志で統御しきることは困難であり、事実上、不可能であるという、

4

[4]現代の我々が直面している問題は、実は人類がその出発点からずっと抱えてきているとも思われます。「国々に市あり」といわれているように、『魏志東夷伝』倭人の条によって、すでに三世紀、各地に市のあったことが分かりますが、最近の発掘成果は縄文時代の社会がすでに広域的な［a］を前提にしていたことを明らかにしており、原初的な市庭はそこまで遡りうると思います。

（網野善彦『歴史を考えるヒント』による。一部改変）

問一　①［x］には同じ言葉が入る。文中から抜き出して書きなさい。
②［y］には漢字一字が入る。文中から抜き出して書きなさい。
③［a］には漢字二字の熟語が入る。文中から抜き出して書きなさい。
④［b］には漢字二字の熟語が入る。文中の漢字を組み合わせて書きなさい。

問二　傍線部1「普通の生活の中で物と物とを交換すると、その二人の関係はより強く結びつくことになります。」について、何故そのように言えるというのか、文意に即して説明しなさい。

問三　傍線部2「商品の交換」が成り立つのは、どのような場合だと言っているのか。文意に即して、説明しなさい。「境界領域」と「無縁」の語を必ず用いて、最後を「場合。」で結ぶこと。

問四　傍線部3「人は物を「神」の手に委ねてしまったのだ」と同じ意味合いのことを、まったく違う言い方で表している部分を、文中から抜き出し、その最初と最後の三文字を書きなさい。

問五　傍線部4「現代の我々が直面している問題」について、ここで言う「問題」とはどのようなことか。例を挙げて具体的に説明しなさい。

問六　次の中から、この文章の内容に合っていないものをすべて選び、その記号を書きなさい。

5

ア　「市場」を「いちば」と読むことが正統であるのは、「市庭」と書いていたからである。
イ　人は神と異なるので、物を自分の所有物として交換するから、商品の交換にはならない。
ウ　金の切れ目が縁の切れ目であるのは、商品の交換は市場の本来の機能であるからである。
エ　世俗の縁が切れた場所である市場では、物が神に委ねられるから、商品の交換ができる。
オ　虹の下に市が立つのは、天界と人間界の境界で、神の許しを得て交易を行うためである。
カ　「庭」は本来、個人や共同体を超越した境界領域に属する特異な空間を指すものだった。
キ　日本の原初的な市庭は、歴史資料により、三世紀には存在していたことが分かっている。
ク　世俗の縁の切れる場所は、人や物の持ち主がない無縁の場であり、聖なる世界に属する。

一般選抜（個別選抜型）・新入生特待奨学生選抜試験　（国語）解答例

6

一

①　必死　②　割く　③　倹約　④　奮い　⑤　掃く

二

①　読み　ゲキリン　意味　帝王の怒りを買う。目上・上司などの気持にさからって怒りを買う。
②　読み　コウセイ　意味　後から生まれてくる者は、未来にどれほどの力量を示すかはかり知れないから、畏敬しなければならない。
③　読み　シンサン　意味　つらく苦しい目にあう。
④　読み　シガ　意味　無視して相手にしない、問題にしない。

三

①　デザイナーが意匠と趣向を凝らした商品を開発した。
②　信念を持った者が論陣を張れば、反対する者の説得に成功する。
③　職人が暫時休憩しながらでも作業を続ければ、作品は漸次できあがり完成する。

四

問一　①　超えた　②　場　③　交易　④　投入

問二　普通の生活に於ける特定の人の持ち物の交換は、それを交換する人の心の交換で、相互の贈与・互酬だから。

問三　聖なる場所と俗なる場所の境界領域である市庭（市場）で、物を一旦、誰のものでもない無縁の状態にした場合。

問四　最初　人間は　最後　できた

問五　株式市場や商品取引市場は、人の予想や期待どおりにはならず、その価格は乱高下して勝手に暴走することがあるといった問題。

問六　イ　ウ　オ　キ